令和３年度　国立那須甲子青少年自然の家　教育事業

「第１回　なすかしの森ファミリーチャレンジ　焚き火編」報告書

令和３年７月１０日（土）～7月１１日（日）

【目的・趣旨／概要】

子どもの頃の体験の機会が多いほど、自尊感情や共生感、意欲・関心等が年齢を重ねた後に、高くなる傾向であることが調査研究において明らかになっている。このことを踏まえ、当事業では自然体験への興味やその効用を感じる機会を提供できるよう、親と子どもが双方に協働しながらの自然体験活動を実施する。第１回目は小学生の家族を対象に「はじめてのキャンプ」というテーマで、体験活動を通して親子の絆の深まりや体験活動への関心の醸成をねらいとして活動を行う。

【参加者】

対象：幼児、小学生又は中学生を含む家族　１０家族程度

実績：１０家族３０名（大人１５名、中学生１名、小学生１１名、未就学児３名）

【プログラム概要】

【集合・受付】１日目　１３時００分～１３時３０分

【出会いのつどい】１日目　１３時３０分～１４時００分
当事業の参加者が初めて顔を合わせる場として、つどいを行った。当施設の職員とボランティアスタッフによるレクリエーション等を通じて、次第に緊張が解けていき、この事業を行う心構えを持つことができた。

【焚き火教室①】１日目　１４時００分～１４時３０分
導入のプログラムとして、日本と世界の焚き火についての比較を通じて、家族ごとに焚き火についての理解を深めることができた。

【焚き火教室②】１日目　１４時４０分～１５時４０分
焚き火について、具体的にナタの使い方や火の起こし方について学び、家族で協力して火起こしを体験した。この時間の活動により今回のキャンプを行う上での下地を作ることが出来た。

【テント設営】１日目　１５時５０分～１７時００分
テントの設営方法について学び、実際に家族ごとにテントを設営した。テントの中での寝袋を敷くことで疑似テント泊を体験した。また、希望する家族は実際に、テントに宿泊し、キャンプ気分を味わった。

【夕食】　１日目　１８時２０分～１８時００分

【焚き火】　１日目　１８時２０分～１９時５０分
家族ごとに、焚き火教室での内容を生かして、火起こしにチャレンジし、スモア（マシュマロを焼いて、クッキーに挟んだもの）を実食した。この活動での火起こし体験を翌日の野外炊事につなげることが出来た。

【入浴】　１日目　２０時１０分～２０時５０分

【朝のつどい】２日目　７時００分～７時２０分　ラジオ体操等

【朝食】　２日目　７時２０分～８時００分

【野外炊事】　２日目　９時００分～１３時００分
このキャンプの集大成として家族ごとに夏野菜カレー作りにチャレンジした。家族毎にカレー用の食材（野菜）をゲームで獲得し、調理した。また、飯盒炊飯も体験した。

【別れのつどい】２日目　１３時００分～１３時３０分
本事業を振り返る場として、別れのつどいを行った。家族ごとにこの事業の感想や出来事などを共有し、それぞれの家族において絆を深める機会となった。

【解散】　２日目　１３時３０分

【成果】

・家族で焚き火、テント設営、野外炊事にチャレンジすることができ、家族で力を合わせて活動することができた。
・１日目の焚き火の経験を生かし、２日目の野外炊事では、少ない薪で作ることができた。
・野外炊事で夏野菜を加えることで、より興味・関心をもって活動に取り組めた。

《参加者の声》

・子どもの家ではなかなか見られない姿を見ることができた。（手伝いや、自分のことは自分でやるなど）
・家族で協力してテント設営や火起こしが出来たのが良かった。
・大人も楽しめる内容であった。

【課題と方策】

・食材については、感染症対策として、事前に職員が家族ごとの人数に合わせて分けておいたが、一部の食材が分けられてなかった。
・２名での参加家族がいたが、８人用の鍋でカレー作りをしてしまったので、人数にあった大きさの鍋を準備して取り組んだ方がよかった。

国立那須甲子青少年自然の家［作成］企画指導専門職　小豆畑　隆則